

# 豊かなかかわりの中で輝く浦安っ子

## スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育む

### 東京2020オリンピック・パラリンピック、2019年、ラグビーの国際的な大会の開催に向けて

次世代を担う子どもたちがスポーツの楽しさやボランティア精神の大切さを感じ、また、グローバル社会や障がいへの理解を深められるような学びの機会を設けています。

#### ●パラアーチェリー体験

浦安市運動公園のアーチェリー場で、パラアーチェリーの日本代表選手に教えてもらいながら、実際に矢を射る体験をしました。体験後はグループごとに分かれ、選手と交流しました。

**Q** アーチェリーをやっていて一番うれしかったことは何ですか。

**A** アーチェリーを通していろいろな人と出会えたことです。

**Q** 練習が大変な時はどうしますか。

**A** 選手同士で相談したり助け合ったりしています。

パラアーチェリーとは、50mまたは70m先にある的をねらい、得点を競う肢体不自由の選手を対象としたアーチェリー競技のことです。オリンピックとほぼ同じルールで行われますが、障がいの内容や程度に応じてルールや用具の変更が一部認められています。



（美浜南小学校）  
アーチェリーの体験をする児童



グループごとに選手から話を聴く

#### ●フェンシングはどこの国が発祥のスポーツでしょうか？（答えはフランスです）

スマートフェンシング体験をする（東野小学校）

立ち上がって応援する（見明川中学校）



このような質問からフェンシング教室が始まりました。フェンシングには、全身がターゲットとなるエペ、胴体だけがターゲットとなるフルレそして、上半身がターゲットで、「突き」だけではなく「斬る」も有効となるサーブルの3種類があることを知り、日本人トップ選手の試合を観戦しました。だんだんと応援する声が大きくなり、最後は、小学生も中学生も立ち上がって大きな声で応援しました。

その後、当たってもいたくない柔らかな素材でできている剣を使うプラスチックフェンシングやスマートフェンシングを体験しました。応援する楽しさや実際に競技をする楽しさを味わいました。

1896年の第1回オリンピックから今までの間、ずっと続いている競技は、陸上、水泳、体操、自転車競技とフェンシングの5種目だけだそうです。

#### ●オリンピック・パラリンピックを活用した教育

体育館で目隠しをして横たわっている学校の先生たちは、パラリンピック競技のゴールボールの練習をしています。ゴールボールとは、アイシェード（目隠し）を着用して鈴の入ったボールを転がし、相手のゴールにボールを入れて競う競技です。



右上の写真がなんだかわかりますか？これは、ボールをレジ袋で包んでテープで留めたもので、転がすと「カサカサ」と音が鳴ります。本物のゴールボールのボールは高価なものですが、このボールならどの学校でもゴールボールを行えますね。先生たちはゴールボールの授業を行うためのコツややり方を教わりました。



ゴールボールの体験をする先生方

#### ●スポーツの集い

パラリンピック競技の車いすバスケットボールやゴールボールを体験できるスポーツの集いが総合体育館で開催されました。あいにくの雨で外での活動は中止となってしまいましたが、ユニバーサルホッケー、スラックライン、タグラグビーの体験コーナーもあり、園児、小学生、中学生から大人まで、気持ちの良い汗を流していました。



ゴールボールの体験を楽しむ



車いすバスケットボールを体験する

#### ●タグラグビー教室

浦安市を公認キャンプ地としているニュージーランドのラグビー協会のコーチによるタグラグビー教室が市内の小中学校で開かれました。多くの子どもたちは初めて触るラグビーボールに戸惑いながらも、「象の鼻のように腕を動かしてボールを投げる」「ハンバーガーを食べるのように手を構えて、ボールを取る」など、コーチからのアドバイスを受けながら楽しく活動しました。

パスの練習や腰に付けたタグを取り合う鬼ごっこのような練習をし、最後は、試合をして盛り上がりました。子どもたちの感想には「コーチが優しく、親切で、また、会いたい。最初はルールがわからなかったけど、ルールがわかった」とありました。



“ハカ”を教わる（明海南小学校）



タグを取られないように走る（東小学校）



象の鼻のようにボールを投げる（東小学校）



給食をコーチと一緒に食べる（東小学校）



パスの練習をする（明海南小学校）